

組織目標評価報告書（平成22年度）

部局名： 埋蔵文化財調査研究センター

	組織目標	達成状況(成果)
教 育	①「博物館実習」の一部を分担し、調査研究とその成果を教育活動に資する。	①平成22年度の博物館実習は、津島岡大遺跡第33次発掘調査現場(薬学部敷地内)と埋蔵文化財調査研究センターで行った。昨年度と同様に、約40名の受講生を4班に分けて各2日間の実習期間である。1班8～10人の少人数構成や現場での体験は、習熟度を高める上で極めて効果的であった。また、発掘調査への参加は、単に考古資料の取り扱いに関する知識のみならず、自らの生活の場(岡大・地元)と歴史とを強く結びつける効果を生み出し、学芸員としての本質的素養形成に寄与することとなった。 ②学長裁量経費の採択によりオンザショプトレーニングの取り組みを行った。自治体が行う内容を多く含む本センターの業務の一部に、本学学生8名(考古学専攻生が5名、地質学専攻生が3名)が参加した。大学の講義や実習では体験できない内容であり、より一層のスキルアップにつながる貴重な経験となった。 全体として、目標以上の成果を上げることができた。
		達成度： ④ 3 2 1
研 究	①センター教員の個別研究を進め、全教員が科研費などの申請を行い、外部資金の獲得に努める。 ②鹿田遺跡をはじめとする埋蔵文化財の調査研究に関して、関連科学分野や周辺の自治体との連携を強化し、幅広い研究分野に資するような研究の推進に努める。 ③研究成果を紀要あるいは展示会などで発表する。	①センター教員は5名全員が科研費への応募を行い、そのうち2名が採択され、3名が研究分担者として外部資金を獲得し、成果を上げている。 ②鹿田遺跡における平安～鎌倉時代の調査成果から、文献史学でも注目される「鹿田庄」の研究について、共通したフィールドを調査している岡山県教育委員会ならびに岡山市教育委員会と連携して、総合的実態解明に取り組み、今後の研究の深化の足がかりを構築した。 ③特に鹿田遺跡の研究成果を、展示会の展示内容やシンポジウムの場に反映する形で発表した。 以上、いずれの項目においても十分に目標を達成することができた。
		達成度： ④ 3 2 1
セ ン タ ー 業 務	①構内遺跡の発掘調査を実施する。調査にあたっては、記録のデジタル化を図るなど、新たな調査方法を積極的に導入し、調査の効率化と質の向上に努める。 ②発掘調査の成果を現地説明会において、学内外に積極的に公開する。 ③総合教育研究棟(鹿田地区)の発掘調査に係わる報告書を刊行する。 ④岡山大学病院病棟の発掘調査に係わる報告書を刊行する。 ⑤『岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要2009』を刊行する。 ⑥『岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報』44号を刊行する。 ⑦『岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報』45号を刊行する。 ⑧鹿田地区および津島地区における発掘調査資料の整理作業を推進する。 ⑨木器保存処理を推進する。 ⑩展示会を開催し、学内外に調査成果を積極的に公開する。 ⑪遺物の整理作業体制の見直しを図ることによって、作業の効率化と経費の節減に努める。	①発掘調査では、津島・鹿田両地区で4カ所、計2958.3㎡の面積を調査した。期間は全体で延べ6ヵ月におよんだ。調査員1名の調査現場では、1名で記録可能な測量機器を積極的に導入し、作業の迅速化を図った。 ②1件の発掘調査において現地説明会を開催した。学内外から151名の見学者があり、調査成果を広く公開することができた。 ③⑤⑥⑦総合教育研究棟の発掘調査報告書、センター紀要2009、センター報44号・45号を全て予定通りに刊行した。 ④鹿田14次調査(岡大病院病棟)に代えて津島岡大遺跡32次調査(教育学部剣道場)の発掘調査報告書を刊行した。 ⑧調査資料の整理は、津島地区では津島岡大32次調査の洗浄から復元・種子選別、鹿田地区では鹿田18次調査の洗浄を中心に作業を進めた。 ⑨木器保存処理は、第9期の作業を行った。 ⑩岡山大学創立50周年記念館で2011年1月6～10日に展示会を開催し、376人の見学者が来場した。1月10日には学内外の研究者3名によるシンポジウムを開催し、124名の参加を得た。マスコミでも大きく取り上げられた。 ⑪非常勤職員の業務を見直し、パソコンやデジカメなどの記録媒体を積極的に導入した整理体制へと改善した。 以上、いずれの項目においても、十分に目標を達成することができた。
		達成度： ④ 3 2 1
社 会 貢 献	①岡山県学習センターが行う生涯学習大学の講座などの活動に協力し、社会との連携・協力で寄与する。 ②職場体験などの中学生等を受け入れ、社会との連携、協力で寄与する。	① 8月28日・29日、文学部が大学講座として開催した岡山県生涯学習大学大学院コース(8日間)のうち、8月28日・29日の2日間を担当した。受講生は35名である。岡大構内遺跡の研究成果の講義・構内の戦跡巡り・発掘体験・拓本実習などを組み込んだ内容で、教員5名が対応した。 ②職場体験は、例年2校を受け入れているが、本年度は3校の中学校から、11月・2月に各1～3日間、中学生計10名を受け入れ、学校活動への協力を積極的にすすめた。 以上、いずれの項目においても、十分に目標を達成することができた。
		達成度： ④ 3 2 1

【自己評価総括記述欄】※目標及び指標の達成状況について総括し、次年度に向けた改善点等を記載してください。

本年度は、例年を上回る発掘件数に対応した。そのため年間の大半を調査に割かざるを得ないという過密スケジュールのなかで、それ以外のセンター業務も創意工夫によって効率化を高め、いずれも十分に目標を達成することができた。教育面では、オンザショプトレーニングへの取り組みが成果を上げた点が特筆される。当初目標にはなかったものであるが、大学教育の場としての本センターの可能性の高さを探ることができた。社会貢献では、特に周辺自治体との連携が際立つ。生涯学習大学講座の担当や展示会における協力・連携である。展示会で行ったこうした試みは初めてであり、多数の入場者を得るとともに、メディアで積極的に取り上げられ、学外への情報発信としても十分な効果を発揮することができた。展示会ではシンポジウムを開催し、研究成果を発表するなど、研究面の強化につながった。来年度に向けても、これを足がかりとして、さらなる研究面での推進が求められる。

【達成度】 4:非常に優れている 3:良好である 2:概ね良好であるが改善の余地あり 1:不十分であり改善を要する

注)本様式は一般的な学部・研究科用であり、部局の特性に合わせ設定した領域・指標により修正してください。